

特別研修会

日時:令和5年6月11日(日)
場所:ステーションコンファレンス東京、Web
講師:木津 康博先生



諸岡 朋子(東京都)

令和5年6月11日(日) 10:00~15:30 ステーションコンファレンス東京にて、本年度第1回特別研修会が参集ならびにオンラインにて開催されました。今回は、神奈川県ご開業で東京歯科大学口腔インプラント学講座、口腔腫瘍外科学講座 臨床准教授でいらっしゃる木津 康博先生より「インプラント治療におけるデジタルテクノロジーおよび骨造成術の現状と未来」という演題にてご講演いただきました。インプラント治療の経験の浅い先生からベテランの先生まで理解いただける、大変興味深い内容でした。

講演の前半では、デジタルテクノロジーについてお話いただきました。インプラントの長期的成功には、偶発症を回避した安心かつ確実な手術、理想的な補綴位置を考慮した適切な位置への埋入が条件がありますが、これらを達成するにあたりデジタルテクノロジーの応用が必要不可欠であると述べられました。Computer guided system は、2000年以降用いられ、現在は静的ガイドが主流とのことでした。システムティック・レビューの掲載件数も2014年の18件から2021年の61件と多くなり、5~10年後は圧倒的なシェアとなると予測されていました。過去の文献より、フルガイド且つ歯牙支持タイプの使用は他のタイプより誤差が有意に少ないとのことでした。

動的ガイドに関しては、2015年に Navident®、2020年に X-Guide® が薬機承認販売され2021年にシステムティック・レビューも初めて掲載されたと話されていました。こちらは、画面上でドリリングを確認し、術直前または術中の計画変更が可能であり、静的ガイドの欠点である開口量の制限を改善できるため大白歯部の埋入に適しており、抜歯即時埋入、骨形態不良の部位にも適応とのことですが、多



数歯への応用は静的ガイドの使用を勧められました。そして、未来はロボットでの手術が可能になることを述べられました。

後半は、骨造成術についてお話いただきました。こちらは、2012年にシステムティック・レビューが多数掲載され、現在も様々な材料や術式にて応用されているとのことでした。本講演では、骨再生のメカニズム、骨移植材やメンブレン各種の特性や術式について、そして自己血を用いたPRP等による軟組織・硬組織への応用についてご説明いただきました。また、未来への展望として、体性幹細胞、特に脂肪由来幹細胞の応用について述べられました。今後はエビデンスを確立し、口腔粘膜、顎骨やインプラントにも用いられることを期待されていました。

本講演終了時には、質疑応答にて活発なディスカッションが行われました。

講演後は、会場の近くにて懇親会が開かれ、木津先生を囲み楽しい時間を過ごすことができました。本講演を通して、安心・安全なインプラント治療を行うにあたって必要な知識を増やすことができたと共に、デジタルテクノロジーの重要性を強く認識いたしました。今後の臨床に活かしていけたらと思います。